

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年11月 中部農林振興局

(中部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2~3)
- 1 11月期子牛せり市が開催
 - 2 第64回宮崎中央畜産共進会が開催
 - 3 農業経営指導士会3支部合同研修が開催
 - 4 中部地区営農振興協議会花き部会技術員会大分県視察研修を実施
 - 5 大阪レストランでの「宮崎食材フェア」開催に向けた事前現地視察対応
 - 6 綾町果樹生産者大会が開催
 - 7 田野町小学校でのお茶の淹れ方教室が開催
- II 主な普及指導活動等の取組み (P 4~8)
- 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動
 - 1 農業経営研修会を開催
 - 2 宮崎方式営農支援体制農業者研修 経営発展研修会を開催
 - 3 宮崎市SAP会議佐土原支部役員会開催
 - 4 宮崎市SAP会議役員会開催
 - 5 宮崎市SAP会議勉強会開催
 - 6 承継マッチング試行の支援
 - 7 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催
 - 8 新規就農者就農状況調査の実施
 - 9 綾町のオーガニックスクールの水稻収量調査の実施
 - 10 国富町北俣採種組合の実績検討会が開催
 - 11 環境制御技術研修会を開催
 - 12 AUP会現地検討会が開催
 - 13 中部地区営農振興協議会野菜部会研修会が開催
 - 14 トルコギキョウ栽培における炭酸ガス施用効果の確認調査の実施
 - 15 新木地区基盤整備事業推進委員会で水田裏作について検討
 - 16 水田裏作に係る実証ほ場の巡回を実施
 - 17 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会が開催
 - 18 かんしょ栽培講習会の開催
 - 19 日本茶AWARD研修会の開催
 - 20 コチョウラン栽培における炭酸ガス施用効果の確認調査の実施
 - 21 ダリアNAMAHAGE14期生の1番花の特性調査の実施
- 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 9)
- 1 県域のデルフィニウム研修会が開催
 - 2 JAネルボーサス（ブルーフレグランス）研究会の現地検討会が開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 11月期子牛せり市が開催

10日、11日、宮崎中央家畜市場で開催され、合計574頭（雌：250頭、去勢：324頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、普及センターから「今年の冬は、病気に負けない」と題して講演を行いました。

なお、今回子牛平均価格は、雌654千円（前回比33千円高）、去勢739千円（前回比15千円高）、総平均702千円（前回比25千円高）という結果になりました。

2 第64回宮崎中央畜産共進会が開催

14日、宮崎中央家畜市場で、第64回宮崎中央畜産共進会が開催され、去勢子牛19頭、雌子牛45頭、育成牛21頭の出品がありました。各部の門の首席は下記のとおりです。

○去勢子牛の部

池尻 幸男さん（南宮崎） 「池34」号（桃白鵬産子）

○雌子牛の部

谷口 節美さん（南宮崎） 「かずこ」号（孔明桜産子）

○育成の部（第1類）

川添 友誠さん（田野） 「ななこ」（耕富士産子）

○育成の部（第2類）

池尻 幸男さん（南宮崎） 「うめ3」（二刀流産子）



【グランドチャンピオン「うめ3」号】

3 農業経営指導士会3支部合同研修が開催

28日、南那珂地区管内において、宮崎県農業経営指導士会3支部（中部・南那珂・児湯）合同研修会が開催され、3支部合計9名の指導士が参加されました。

現地調査では、南那珂地区指導士2名の現地ほ場（木村農園（スイートピー）、（有）緑の里りょうくん（柑橘類））において、それぞれの経営の取組等について紹介していただきました。

意見交換会では、「労働力確保の取組について」、南那珂地区的取組事例とともに、各指導士から自身の現状や課題について、多くの意見が出され、有意義な研修会となりました。



【現地調査】

4 中部地区管農振興協議会花き部会技術員会大分県視察研修を実施

27～28日、大分県において、関係機関8名が参加し、トルコギキョウをテーマに視察を実施しました。1日目は、新規栽培者の研修体制やファーマーズスクールでの研修の状況を視察し、2日目は現地生産者ほ場でトルコギキョウやラナンキュラスラックスの生育状況、キクから一部トルコギキョウへの転換をされた生産者ほ場を視察しました。花き担当だけでなく、扱い手担当も参加し、有意義な視察研修となりました。今後は、毎月開催している花き技術員会で今回の視察で得た情報を元にトルコギキョウ栽培振興を検討していきます。

5 大阪レストランでの「宮崎食材フェア」開催に向けた事前現地視察対応

6日、宮崎市高岡町完熟きんかんほ場にて行われ、JA担当者とともに対応しました。このフェアは、県大阪事務所が主催する「宮崎の食材を使ったフェア」で、今回は、フェアに参加するレストラン4店舗のシェフ5名、バイヤー2名、県大阪事務所担当者2名が参加し、管内で生産される完熟きんかんほ場を視察しました。

JA担当者から、完熟きんかんの栽培や出荷時期の説明を行った後、ハウス内を見学しました。現在の果実の色や形の順調な仕上がりを確認し、1月以降の収穫時期を心待ちにしている様子がうかがえました。

6 綾町果樹生産者大会が開催

25日、綾町において、令和7年度綾町果樹生産者大会が開催されました。この生産者大会は2年に1回の開催で、各賞の表彰の後、研修会では、果樹の鳥獣害対策、果樹の高温対策について、それぞれ、鳥獣被害対策支援センター、専門技術センター果樹担当専門指導員より、講演がありました。そして、会の結びには、『あや』ブランドの確立を目指す大会決議が声高らかに唱和されました。

今後も普及活動や講習会等で、各品目の課題に対応していきます。



【綾町生産者大会決議】

7 田野町小学校でのお茶の淹れ方教室が開催

14日、宮崎市田野町小学校にて宮崎市・田野町茶業振興会によるお茶育教室が開催され参加しました。

お茶育教室では田野町と清武町のお茶農家が講師を務め、主体となって授業を行いました。宮崎市役所やJA宮崎と協力しながら、小学生にお茶の種類の説明を行い、お茶淹れ体験を行いました。お茶の魅力を感じ地元産茶への理解が深まったことと思います。

今後も地域の皆さんと連携し、お茶の消費拡大や地元産業の活性化を図れるよう支援してまいります。



【田野町小学校お茶入れ教室】

II 主な普及指導活動等の取組み

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

【総1・中部地域の農業を未来へつなぐ農業者の確保育成】

1 農業経営研修会を開催

13日、20日、普及センターにおいて、就農後1～8年目の生産者5名を対象とした農業経営研修会を開催しました。

13日には、同規模の経営体の決算書を用いたケーススタディおよび自身の決算書等から現状把握と改善点の検討を行いました。20日には、自身のライフプランの作成実習と実現に向けた経営分析の活用方法についての説明を行いました。

経営分析の重要性の気づきとなり、今後の農業経営へ活かされることが期待されます。

2 宮崎方式営農支援体制農業者研修 経営発展研修会を開催

18日、普及センターにおいて、オンラインで開催され、15名が参加しました。今回は、「農業における生産性向上の重要性と改善例について」と題して、(株)トヨタ自動車の山形政勝氏による講演が行われました。(株)トヨタ自動車の生産方式を農業に応用展開した支援内容等、事例を基に紹介されました。

参加者からは、紹介された事例を今後、自身の経営に当てはめて取り組んでみたいという前向きな意見が聞かれました。

3 宮崎市SAP会議佐土原支部役員会開催

12日、佐土原で開催され、出席しました。第3回勉強会について話し合いが行われ、1月に開催となりました。SAPからのリクエストにより、農薬と害虫をテーマに普及センターから講義を行うことになりました。今後も佐土原支部の活動がますます活性化するように支援していきます。

4 宮崎市SAP会議役員会開催

18日、宮崎市役所で開催され、出席しました。11月23日の権原市農業祭（奈良県）での出店についての最終打合せや、みやざき中央支援学校との今後の取組み、及び、冬季大会について話し合いが行われました。

また、支援学校との農福連携の取組が評価され、2月に開催予定の県主催で行われる「農福連携セミナー」に宮崎市SAP会議が事例発表者として登壇するとの報告がありました。

1月の市SAP冬季大会や県SAPグランプリでの発表へ向け支援していきます。

5 宮崎市SAP会議勉強会開催

26日、宮崎市役所で開催され、出席しました。今回は農業資材メーカーを講師に招き、使い方や効果を学んだ後、質疑応答が行われました。

実際に資材を使用したメンバーからの体験談を聞いたり、研修終了後にも講師と意見交換を行う姿が見られ、資材の利活用に対する理解が深まったようでした。今後もSAP会員の自発的な学修活動が活発になるよう支援していきます。



【宮崎市SAP会議 勉強会】

6 承継マッチング試行の支援

21日、高岡営農センターにおいて、JA宮崎中央地区本部温州みかん部会販売実績検討会が開催され、出席しました（29名）。9月に実施した労力確保・承継マッチングを目的とした収穫アルバイトの取組について、普及センターから取組概要を説明後、実施農家が事例発表を行いました。

今後、2～3月の完熟きんかんの収穫時期に同様の取組を予定しており、継続して支援していきます。

7 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催

28日、綾オーガニックスクールの運営主体である（合）アヤオーガニックワークスの事務所において開催され、関係者6名が出席しました。農業実習や座学の進捗状況の確認、12月以降の取組内容や次年度のスクール運営費予算の検討、第4期の研修希望者等の情報共有などを行いました。

普及センターでは、町役場と連携しスクール卒業生等の就農計画作成支援を定期的に行っており、今後も関係機関と連携して、支援を続けていきます。

8 新規就農者就農状況調査の実施

6日、10日、21日、26日に宮崎市53名、農業次世代人材投資事業（経営開始型）、新規就農者育成総合対策事業（経営開始資金）受給者を対象とした就農状況調査が宮崎市主催で実施されました。

市と普及センター、JAの担当者が受給者の圃場を巡回し、就農後の経営収支状況、栽培管理状況、経営上の問題点等について聞き取りを行いました。

今回の調査結果を活用して、新規就農者の就農定着と経営安定に向けて、関係機関一丸となって支援していきます。



【就農状況調査】

9 綾町のオーガニックスクールの水稻収量調査の実施

6日、普及センターで、オーガニックスクールの研修生1名と、水稻の収量、品質調査を行いました。有機質肥料や無農薬で栽培した水稻の収量や品質を自ら調査分析し、これらの使用した資材が水稻の生育に与える影響を理解することで有機農産物生産技術の向上を目指しています。

今後ともこのように実行、効果確認、計画の見直しを繰り返すことにより綾町の環境に適合する栽培技術の確立へ向け支援して行きます。

【総2・集落モデル育成による持続可能な水田営農の展開】

10 国富町北俣採種組合の実績検討会が開催

28日、国富町内で、採種組合員3戸を対象に、役場やJA国富支所と連携して、実績検討会を開催しました。検討会では、本年産のコシヒカリと宮崎52号の生産量や品質について確認し、課題や今後の対策等を協議しました。この他、持続的で安定した生産に向けて、水田利用や機械利用のあり方についても前向きな意見交換が行われました。

これからも関係機関と連携して種子生産組合の活動や八代北俣の効率的な水田活用への支援を行っていきます。

【総3・施設園芸版スマート農業による高収益園芸産地の育成】

11 環境制御技術研修会を開催

27日、JA綾町地区本部選果場会議室において、Dプロ参加農家やJA指導員等計6名の参加のもと開催しました。

今回は、10月に農研機構の安先生を招いて行った研修会の振り返りとして、普及センターから、安先生が講演や現地検討会で説明された内容について、スライドを用いて意味合いや考え方の補足を行いました。説明後は、各場面での先生の発言について、活発に意見交換が行われました。

引き続き、環境制御技術に関する研修や巡回指導等を継続し、Dプロ参加農家の収量向上を支援していきます。

12 AUP会現地検討会が開催

11日、綾町内現地ほ場において、生産者等7名が参加し、開催されました。

今回は会員4名のほ場を巡回し栽培管理について意見交換を行うとともに、普及センターから着果負担が大きくなりやすい時期であることを踏まえ、過度の着果が起きた場合の影響や適正着果を保つための手法について説明を行いました。

AUP会は、自らが成長することを通じて綾町を元気したいとの思いで環境制御技術をはじめ幅広い分野の勉強会を続けています。引き続き会の活動を支援し、生産性向上を支援していきます。



【ほ場を巡回し意見交換】

13 中部地区営農振興協議会野菜部会研修会が開催

28日、JAみやざき宮崎中央地区本部アグリベースにおいて、JA技術員・市町職員計14名が参加し開催されました。

Dプロ事業のデータ閲覧アプリ「MIRIZ」では、光合成速度及び蒸散速度が閲覧できるようになっています。これらの数値を技術指導に活用するため、ダブルエム研究所の狩野敦代表を講師として招き光合成及び蒸散の基礎知識について技術員の理解を深めました。

今後、アプリを活用した技術指導を推進し、Dプロ参加生産者の生産性向上を支援していきます。



【植物生理研修会】

14 トルコギキョウ栽培における炭酸ガス施用効果の確認調査の実施

21日、宮崎市の生産者2名のトルコギキョウ栽培ほ場において、JA、普及センターの花き担当で調査を実施しました。

管内では、2名の生産者が炭酸ガスの施用を行っています。数年前から現地において炭酸ガスの施用がトルコギキョウの品質や開花促進に及ぼす効果を調査し、昨年、炭酸ガス施用により1番花で花蕾の枯死が軽減することが確認されました。

今年、最終調査を関係機関と連携し実施し再現性を確認中であり、今後、調査結果をとりまとめて普及へ繋げて行きます。



【試験設置ほ場】

【総4・マーケットインに基づく新たな土地利用型営農の展開】

15 新木地区基盤整備事業推進委員会で水田裏作について検討

6日、佐土原町新木地区で開催され、水田裏作品目と将来の担い手についての室内及び現地検討が行われました。普及センターからは、水田裏作で栽培可能な品目について提示し、生産者と意見交換を実施しました。

今後とも水田裏作品目の選定について支援をしていきます。



【現地検討】

16 水田裏作に係る実証ほ場の巡回を実施

7日から20日にかけて、宮崎市内の基盤整備事業要望地区で実施している水田ゴボウ、ブロッコリー、レタス、葉付きタマネギのほ場巡回を行いました。どの品目も順調に生育していました。

今後も引き続き、巡回を行うとともに、病害虫防除や追肥の技術支援を行っていきます。



【生育順調のブロッコリー】

17 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会が開催

21日、宮崎市本郷南方地区で開催され、今後の事業採択に向けたスケジュールや現地研修の内容検討が行われました。

普及センターからは水田裏作で栽培可能な品目について説明しました。

今後、視察研修や地権者及び耕作者に向けたアンケートを実施し、水田裏作品目選定等の支援をしていきます。



【準備委員会での検討】

18 かんしょ栽培講習会の開催

26日に国富町、27日に田野町において、次作に向けたかんしょの栽培講習会を開催しました。基腐病や茎根腐細菌病を中心とした病害の特徴や防除方法を説明しました。また、異常気象の影響が大きくなりつつあるため、高温・乾燥対策として、かん水の重要性についても重点的に紹介しました。来月も佐土原町と綾町において講習会を行う予定です。



【かんしょ栽培講習会】

【専2・国内外の需要に対応した茶産地の育成】

19 日本茶AWARD研修会の開催

11日、中部地区営農振興協議会特用作物部会主催により中部農業改良普及センターで開催しました。

日本茶AWARDは仕上げ茶の全国大会であり、管内からは5名の生産者が出品し、審査員奨励賞を1名が受賞しました。

研修会では次年度の出品に向けて、県内でプラチナ賞を受賞した茶商を講師に迎え、本年度のAWARD受賞茶と管内生産者の茶の飲み比べと意見交換を行い、現在の消費トレンドや入賞に向けた火入れの注意点といった情報を共有しました。

引き続き、良質茶葉生産のための肥培管理や製造加工について支援してまいります。



【入賞に向けた意見交換会】

【専6・生産技術向上による花き産地の維持】

20 コチョウラン栽培における炭酸ガス施用効果の確認調査の実施

11日、宮崎市の生産者4名の栽培ほ場において、JA、普及センターの花き担当で調査を実施しました。管内では、5名の生産者が開花室における炭酸ガスの施用を行っています。昨年から炭酸ガス濃度の実態調査を行ってきており、今年は、現地において炭酸ガスの施用がコチョウランの品質や開花促進に及ぼす効果を検討することにしています。

今後、月に1回調査を行い、炭酸ガス施用の有用性の検討を関係機関と連携し行って行きます。



【調査株】

21 ダリアNAMAHAGE14期生の1番花の特性調査の実施

7日から随時、宮崎市田野町生産者ほ場等において調査を実施しました。中部地区のダリア栽培は、新品種の試作を毎年実施しており、当地域の気象に適した品種の選定を行っています。

今後は3番花まで調査を実施し、生産者へ調査結果を共有予定です。



【NAMAHAGE14期生】

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 県域のデルフィニウム研修会が開催

25日、宮崎市において開催されました。管内からは、生産者8名、関係機関2名が参加しました。

市場からの情勢報告や県試験場花き部の研究成果や試験ハウスでの説明、品質の目揃え会が行われ、活発な意見交換が行われました。

管内では、試験場の研究成果である閉鎖型育苗技術の展示を2名の生産者ほ場に設置しており、その効果を確認中です。今後も、デルフィニウムの生産技術向上へ向けた支援を行っていきます。

2 JAネルボーサス（ブルーフレグランス）研究会の現地検討会が開催

12日、宮崎市において、生産者5名、関係機関3名が参加し、現地検討会が開催されました。宮崎市で栽培している3名の生産者ほ場で栽培状況の確認を行いました。

10月までの日中や夜温の高さにより、初期生育が停滞していましたが、11月の低温により少し回復傾向でした。春先にJA、生産者、普及センターで連携して実施した輸送試験の結果を踏まえての協議や高温対策の協議を行い、活発な意見交換の場となりました。

今後ともブルーフレグランスの産地振興へ向け支援していきます。



【現地検討会】

